

5. 今月のトピックス 「トマトすすかび病について」

1. トマトすすかび病とは

近年、トマトの施設栽培において、トマトすすかび病の発生が全国的に問題となってきています。三重県では平成 16 年に初めて発生が確認されており、現在までに 24 府県で特殊報が発表されています。本病は、トマトとミニトマトで発病することが知られており、真夏から秋にかけて発生が多い傾向にあります。

2. すすかび病と葉かび病の違い

すすかび病とよく似た症状を示す病害として葉かび病があります。共に葉に発病しますが、すすかび病は、葉裏の病斑に黒褐色の平面的なカビを生じます。一方、葉かび病は、葉裏の病斑に灰白色の立体的なカビを生じます (図 1)。しかし、すすかび病と葉かび病は病徴が非常によく似ているため、肉眼で判別することは大変困難です。このため、確実に区別するためには、顕微鏡で分生子 (孢子) の形態を観察する必要があります。すすかび病の分生子は棒状であり、葉かび病の分生子よりはるかに長いことが特徴です (図 2)。どちらの病害か判別できない場合は、病害虫防除所や普及センターなどの関係機関に連絡し、相



図 1 すすかび病および葉かび病の病徴 (農業研究所原図)

談してください。なお、最近は葉かび病抵抗性品種が導入されていますが、すすかび病はこれらの品種でも発病します。



図 2 すすかび病および葉かび病の分生子 (農業研究所原図)

3. 発病しやすい条件と防除方法

すすかび病菌はカビの一種であり、多湿条件の施設栽培で発生しやすくなります。そのため、密植や過繁茂を避けるとともに、施設内の換気に努めてください。また、病原菌は被害植物の残渣で越冬し、翌年の伝染源となるため、被害葉や被害残渣は圃場外に持ち出して適切に処分してください。

薬剤防除については、予防に重点をおいて定期的に行ってください。薬剤に対する感受性低下を防ぐため、ローテーション散布を心がけることも大切です。